

多くの人 がテント生活

インドネシア地震

AMDAは一昨年以來、スマトラ島やスラウェシ島などインドネシアで大地震が頻発していることから、AMDAインドネシア支部のメンバーを中心に緊急救援チームを設立▽年内にもジャカルタに日本人調整員を置く▽現地に防災トレーニングセンターを設ける——などの方針を固めた。

また、災害時の円滑な緊急救援を行うため、昨年十月、AMDAなど十四カ国のNGOで発足したAPRO（アジア太平洋緊急救援機構）もインドネシアを最重要緊急救援地区に指定、各国のNGOが装備、人材面で協力していくことを決めた。

先月十七日にインドネシアのヒアク島で発生した大地震の被災者救援のため、今月一日からインドネシア人医師二人と現地入りしていたAMDAの菊池和雄調整員（四モ）が五日帰国、岡山市檜津のAMDA本部で活動報告した。

インドネシア政府の発表では、地震の被害は四日までに死者百九人、行方不明五十一人、重軽傷者二百八十人（四日現在）。菊池氏によると、地震や津波で四千戸以上の家屋が壊れ、多くの人がテント生活を強いられているという。

緊急医療は間に合っていないため、一行は現地調達した医薬品や食料品など約三百七十キを届け、帰国した。